

1 君津中央病院の患者における血清亜鉛
2 欠乏の現状と、診療科別の検討

3
4 ○武田哲司 石上とよ子 小笠原孝子 (国保君津中央
5 病院)

6
7 **【目的】** 血清亜鉛 (以下 Zn) とアルブミン (以下 ALB)
8 相関することはよく知られている。今回、生化学用
9 採血管を用いての Zn 測定の検討、および当院患者に
10 における血清亜鉛欠乏の現状と、診療科別の Zn と ALB、
11 コリンエステラーゼ (以下 ChE) の相関について検討を行な
12 ったので報告する。

13 **【方法】** A社とB社の分離剤入り生化学用採血管に
14 による Zn の溶出試験を行なった。

15 また、当院の患者から 200 検体をランダムに抽出し、Zn
16 (シテスト)、ALB (カイヌ)、ChE (シテスト) を測定した。

17 **【結果】** A社とB社の採血管では、B社に Max:36 μ
18 g/dL の Zn 溶出を認め、正誤差を与えた。

19 全体の 42%、84 検体で Zn の低値がみられた。

20 Zn と ALB との相関は $Y=0.024X+1.6134$ ($r=0.346$) だが、
21 Zn72 μ g/dL 以下群では、 $Y=0.038X+0.7541$ ($r=0.4029$
22 $n=84$) と良好である。全体の 25% が Zn、ALB のいずれ
23 かに低値を示した。

24 ALB と ChE 相関は $Y=91.893X-80.41$ ($r=0.5929$) だが、
25 消化器科群は $Y=117.15X-181.84$ ($r=0.6353$ $n=58$)、
26 Zn と ChE 相関は $Y=2.2591X+63.839$ ($r=0.5929$) だが、
27 消化器科群は $Y=117.15X-181.84$ ($r=0.6353$) である。
28 いずれも消化器科群の相関が良好であった。

29 **【考察】** 消化器科において ALB、ChE と Zn の相関が
30 良好なのは、肝代謝との関連が示唆される。

31 さらに消化器科の病態別のデータ収集が必要である。

32 **【結論】** ALB と Zn の測定では、どちらかが低値を示
33 す患者例が 25% 存在した。栄養状態の把握には ALB
34 だけでなく Zn も併せて測定することが望ましい。

35 また、ZN 欠乏患者が 42% 存在することから Zn のスク
36 リングによる欠乏患者検索が重要であり、検査技師は
37 NST と共に栄養状態改善に積極的に介入するべきで
38 であろう。

39 連絡先 0438-36-1071 (内線 3371)